

議会だより

No.117 平成22年12月定例会 1月16日発行

議会ホームページアドレス <http://www.city.nanyo.yamagata.jp/webs/gikai/>

主な内容

- 議長新年のあいさつ・全議員の写真… 2
- 第4回臨時会・12月定例会… 3
- 予算特別委員会… 4・5
- 一般質問… 6～8
- 常任委員会審査報告… 9
- 委員会視察報告… 10・11
- 置病・置広議会報告… 12
- 二市二町議員交流会… 13
- 請願審査結果表・編集後記… 14

謹賀新年



みんな柔道マン！



元気にがんばる子どもたち(19) 宮内柔道スポーツ少年団

「正しい礼儀作法を身につける。」「進んでやる気を出し、強い心と丈夫な体を作る。」ことを目標に1981年4月に結成されました。

毎週月・木曜日の週2回南陽市武道館で元気に活動しています。先輩柔道マンもちょくちょく顔を出してくれ、後輩の指導やお互いの研鑽の場として一生懸命練習に励んでいます。少ない人数ですが、一人ひとりが目標を持ち、心も体もかっこいい柔道マンになれるようがんばっていますので、柔道に興味のある方は是非見学に来てください。



新年のごあいさつ

南陽市議会議長

伊藤 俊美

明けましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、健康で希望に満ちた初春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年中は市民の皆様方からご理解とご協力を賜り、各議員が自己の良識と信念に基づいて議会活動に精励し、市政発展への基盤を築くことができましたこと厚く御礼申し上げます。

さて、世界的な経済不況はわが国にも大きな影響を与え、賃金低下、失業、消費の低迷等引き続き経済の停滞をもたらしています。長期化する経済不況は市民生活の根底に関わる社会保障制度へも極めて大きな影響を及ぼし、行政需要はその量・質ともますます複雑多様化するなどまことに厳しい状況となっております。

このような中、本市におきましては市内小中学校の教育環境整備事業がほぼ完了し、子どもたちの未来へ大きな希望となりました。また、国道13号上山バイパスが開通し、地域発展へ向けて大きく期待が持たれているところです。

とは言いましても、市民生活に欠かせない道路や環境整備の推進をはじめ、農業・商工業や観光の振興、少子・長寿社会に対応した施策、教育問題や危機管理等、取り組むべき多くの課題が残されています。

議会といたしましても議員各々が先導的役割を深く認識し、意欲的な議会活動を通じて地方自治確立に尽力いたしますので、市民の皆様の一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが南陽市そして市民皆様様にとりまして、輝かしい年になりますようご祈念申し上げ新年のご挨拶いたします。

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。



桑原 仁
副議長



小野健一郎
議員



佐藤 明
議員



殿岡 和郎
議員



小林 啓市
議員



渡部 敬
議員



板垣致江子
議員



高橋 篤
議員



田中 貞一
議員



遠藤 栄吉
議員



松木 新一
議員



漆山 鏗一
議員



白鳥 雅巳
議員



片平 志朗
議員



吉田 美枝
議員



梅川 信治
議員



川合 猛
議員



高橋 弘
議員



第4回臨時会

第4回臨時会が11月29日に開かれ、条例案2件が提案され、原案のとおり可決されました。

▲条例▼

○南陽市特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について

○南陽市一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の設定について

議員発議

○TPP交渉参加検討に關し慎重な対応を求める意見書の提出について



12月10日鹿野農林水産大臣に提出

12月定例会

12月定例会は6日から21日までの16日間の会期で開かれました。市長から議案の説明があり、提案された議案は基本構想の策定案1件、会計補正予算5件、議案の撤回1件が提案され原案のとおり可決されました。

また最終日には追加議案1件、議員発議1件、閉会中の継続審査の申し出1件が提案され、それぞれ原案のとおり可決されました。

一般質問は6議員が行い、市当局の考えを質しました。

▲基本構想▼

○第5次南陽市総合計画基本構想の策定について

予算特別委員会報告

○平成22年度南陽市一般会計補正予算（第4号）

○平成22年度南陽市国民健康保険特別会計補正予算（第3号）

○平成22年度南陽市介護保険特別

会計補正予算（第3号）

○平成22年度南陽市水道事業会計補正予算（第2号）

○平成22年度南陽市下水道事業会計補正予算（第3号）

追加議案

○平成22年度南陽市一般会計補正予算（第5号）

議員発議

○議員定数及び議会活性化検討特別委員会の設置について

議員定数及び議会に関する調査研究を行い適切な対応をはかるため、特別委員会を設置するもの。

○TPP交渉参加反対を求める意見書の提出について

環太平洋戦略的経済連携協定に参加することは、国内農林水産業が壊滅的な打撃を受け、地域経済が崩壊しかねないもので国及び政府にTPP交渉参加に反対するもの。

平成22年12月定例会補正予算の概要

補正予算額 **8億9,180万2千円**

内訳 (12月補正分 1億3,118万3千円)
(12月追加補正分 7億6,061万9千円)

一般会計総額 **140億9,283万7千円**に

(単位：千円)

1) 財政調整基金積立金	38,243	8) 企業誘致促進奨励金	1,037
2) 重度心身障害者医療給付費	5,000	9) 菊まつりイベント事業費	
3) 障害者自立支援事業費	43,760	(緊急雇用創出)	4,578
4) 生活保護適正実施推進事業費	3,974	10) 小学校一般管理費 (電気料)	2,520
5) 新型インフルエンザ		11) 中学校一般管理費 (電気料)	11,102
ワクチン接種助成費	3,248	12) 中学校教育振興一般事務費	
6) 梨郷地区湛水防除事業負担金	3,795	(各種大会選手派遣費補助金)	2,475
7) 農地利用集積事業費	2,800	13) 市債元金償還金 (繰上償還)	29,000

補正分の主な補正項目

予算特別委員会による質疑

12月17日予算特別委員会が開催され、市の財政全般についてや消防の広域化の問題等について、活発な質疑が交されました。主な内容は次のとおりです。

◎市の財政全般について

〈議員〉約67億円の学校整備事業により、市債は今後どのように増えていくと試算されているか。

〈課長〉今年度末の市債見込額は174億2,823万5千円とされている。来年度予定していた5億円を超える小・中学校のグラウンド、外構工事を最終日に追加補正したいと考えているが、これで学校関係の工事は一応終了となる。今後、年次計画に基づき、実質公債費比率、将来負担比率が急激に悪化しないような平準化した方法で返済に努めていく。起債は今がピークであり、今後については心配ない。

〈議員〉財政指数もよくない、今後の推移はどうか。

〈市長〉実質公債費比率21.0%であるが、数字にばかりあまりこだわっていると市内の景気対策が全くできない。これ以上極端に悪

化しないよう配慮しながらも、持続的な発展がとげられる南陽市の体制をきつちりとつていくことが自分に課せられた課題であると認識している。まもなく市民体育館の起債償還も終わる。今取り組んでいる学校関係事業の起債により、一時的に残高は上がるが、有利な交付税措置が見込め、償還がどんどん進んでいくので心配はない。

〈議員〉12月に総務省より特別交付税措置がなされ、山形県で17億円、市町村分として34億円の配分がなされたと聞くと、南陽市の配分はいくらか。また何に当てるのか。

〈課長〉南陽市にも特別交付税の一部が12月に交付され、一般的な財源として使用する。当初予算に計上してある分は確保したいが、まだ全額配分には到っていない。



◎土木費（住宅費）について

〈議員〉国では住宅の耐震化向上を推進するため、一戸当たり30万円助成すると聞いているが。

〈課長〉国の補正予算で措置される住宅等建築物の耐震緊急支援事業は160億円を盛り込んだ今年度限りの措置で、自治体負担なしで国が一戸当たり30万円助成するものであるが、事前の耐震診断事業が必須条件であり、制度活用が県内自治体はない。南陽市としては、なるべく早期に診断事業だけは着手したいと考えている。

◎消防の広域化について

〈議員〉平成24年4月1日より2市2町の消防の広域化が図られることになっているが、その進捗状況と決定となる時期は。

〈市長〉名称、本部の位置、人員数といった基本的なところは合意を得、細部に渡っての担当者間の調整に入っている段階である。

〈課長〉3市5町で構成される置賜広域行政事務組合の業務の中に、消防業務も加える規約の改正を行うことが先決になる。各自治体毎に3月議会で議決を受けた後、県に申請する。

(単位：千円)

事業費 (一般財源)		事業費 (一般財源)	
1) 議長車購入費	5,750 (0)	7) 森林交流センター整備事業	122,000 (600)
2) 市庁舎整備工事	1,500 (0)	8) 公園等整備事業	8,837 (0)
3) ふるさとCM大賞記念事業	1,504 (1,504)	9) 消防庁舎修繕工事	2,500 (0)
4) 地域振興基金積立金	5,462 (0)	10) 荻小学校バス購入費	5,800 (0)
5) 公用車購入費	4,250 (0)	11) 小学校地震補強等整備事業費	359,420 (7,000)
6) 子宮頸がん等ワクチン接種促進事業	6,786 (1,697)	12) 学校再編整備事業費	211,230 (6,000)

追加補正分の主な補正項目

追加予算特別委員会による質疑

12月定例会告示までに国の補正予算が確定しなかったため、定例会最終日の21日に追加補正が提示され、議会開会中に異例となる2回の予算特別委員会が開催された。

◎議長車購入について

〈議員〉現況の財政下に、議長車購入の予算は市民の合意を得られるのか。

〈課長〉現車は平成10年に市長車として購入し、その後、議会車に転用したもので、走行距離も11万6千キロとなる。近い将来、車両の更新は必須であることから、全額補助金で対応できる有利な条件の下、前倒しで予算をつけたものである。また車両の特定はなされず、予算の範囲内で購入するものである。

◎森林交流センターについて

〈議員〉梨郷地区公民館と同規模でありながら、吉野地区に出来る森林交流センターに係る予算との大きな隔りは何か。

〈課長〉平成22年度国の一次補正において、森林整備加速化、林業再生補助金ということで、先駆的な木造公共施設が取り上げられ、

国のモデル的な事業に該当することとなった。1億2,200万円の事業予算に対し、8,100万円の補助が見込めることから23年度事業から前倒しで取り組むことにした。地元の林産材を使ったモデルルームを造るなどの規制はあるが、企業の森、林業振興、緑の少年団の活動などが高く評価され、吉野地区だからこそ認められた助成措置を活用したものである。



“祝”CM大賞受賞

市政に対する議員の 一般質問と答弁要旨



市長選挙の公約について
梅川 信治 議員

◎ 一期目の公約に掲げていた市長報酬の削減をなぜとりやめたのか。

〈市長〉 報酬削減については一期目の公約として掲げたもので、二期目の公約に削減を掲げてないのでご理解いただきたい。

行財政改革の一環からも、職員皆さんの協力を得るため率先垂範の形で報酬を削減してきたが、人材の確保や育成、そして削減することによって社会的な影響を及ぼすこともあり、必ずしも良い面だけではなかったとの反省から、この度は削減をしなかったものである。

◎ 企業誘致と市内企業の育成、受注拡大の具体策は。

〈市長〉 工業団地の造成となると西工業団地周辺かと思われるが、団地を造成すると莫大な費用がかかるのでオーダーメイド方式での造成を考えている。

企業の育成については、前向きな経営者に対して経営コンサルタントや企業振興アドバイザー的なものを制度化していきたい。

◎ 勤労青少年ホームの改修計画は。

〈市長〉 施設が老朽化しているが、小学校の校庭や体育館、そしてワトワセンターや沖郷体育館といった代替施設も充実してきているので改修は行わない。今後、施設の廃止も視野に検討を進めていく。廃止の時期等については、勤労青少年ホームの運営委員会と利用者会等で協議する。

◎ 新「市民会館」建設構想は。

〈市長〉 建物や付帯設備等の老朽化が進んでいるため任期中になんとか着工出来ればと思っている。

それまで基金10億円を積立てたい。



どうなる南陽市の
幼保一元化！
片平 志朗 議員

◎ 市内幼稚園の抱える問題は何か。

〈市長〉 女性の就労環境の変化などにより、私立保育園に申し込みが集中する施設ごとの児童数のかたよりと、恒常的に続く定員割れが問題点の1つである。2点目は、定員割れが続く状況での施設の運営も困難になっており、持続可能なサービスの提供が出来なくなる問題がある。

◎ 今、国が進めようとしている幼保一元化についての市の見解は。

〈市長〉 入所施設のかたよりの円滑な就学への移行という点について、幼保一元化は問題解決のため一つの方法であると考えている。

◎ 漆山保育園の民営化をなぜやるのか。

〈市長〉 漆山保育園は定員を大きく割り込んでおり、保育施設の状

況からして、現状を維持しながら多様な要求に添えていくのは相当困難であり、公立から民間へ移行させることも一つの選択肢である。今後、地域の方々と協議を重ね、来年度の12月までには結論を出したいと考えている。

◎ 武道必修科目の選定と指導体制は、その後どうなったのか。

〈教育長〉 平成二十四年度から中学校の新しい学習指導要領による武道必修化が実施される。武道の種目選定については、各学校の教育課程や実情に応じ各学校で選択していく。来年度は、これまで選択体育等で授業実績のある柔道を中心に授業が進められる予定だ。なお今後は、柔道に限らず、武道に携わる地域の方々や関係団体との連携を図り、武道の狙いに則した教育活動や指導体制の充実を進めていく。





第5次南陽市総合計画基本構想について
たか 橋 篤 議員

◎『産業のまちづくり』のなかで、ものづくりの開発力強化と情報発信とあるが、日本全国へどのように発信していくのか。

〈市長〉 経済の発展をなくして市民生活の向上はない。産業振興に取り組み、なかでも首都圏の企業との橋渡しの強化、南陽ブランドの国際見本市への出展、情報をもつ大学や特定地域との連携を通し、技術や経済情報の相互発信を強化していく。

◎本市独自で行っている耕畜連携の補助事業の継続について。

〈市長〉 耕畜連携事業は、平成16年度から本市単独事業として行ってきた。大変有効に利用されているが、堆肥散布の面積も年々増加し、耕種農家・畜産農家の連携システムが組織化され、堆肥の利用

活用も定着し一定の役割を果たしてきた。

今後は、国、県の制度を活用し堆肥の利活用がスムーズに図れるように調査研究を重ねていく。

◎公設の保育園、児童館、幼稚園が6施設あるが、空調設備の整備について。

〈市長〉 本市公設の施設で空調設備が完全に整っているのは平成13年に整備された中川児童館だけで、他の施設が整備された当時は一般的でなかった。

しかし、近年は熱中症対策などでの空調設備の使用ということが言われているので、効果的な利用も認識はしている。今後は相当の費用を要するので、財源の確保も含め計画的な導入について検討していきたい。



中川児童館



教育日本一、文化の香り
安全で安心なまちづくり
いたがき ちえこ 議員

◎児童や生徒の自殺が相次いだが生徒の不登校やいじめ等の現状及び予防対策への取り組みは。

〈教育長〉 現在、不登校は病欠を含み、小学生3名、中学生25名、うち完全不登校は2名。いじめは3件あった。

不登校いじめも対人関係の未熟さが要因となる場合が多く、良質な人間関係の中で心を育てる指導を大切とし、日常的継続的な教育相談や日々の日記指導やアンケートにより多角的多面的に生徒を捉え、即時対応が必要な場合は全校体制で対応している。

◎災害時要援護者避難支援プランの対象者、登録状況、登録者の避難支援プランの策定状況、また今後の課題と取り組みは。

〈市長〉 対象者は75歳以上高齢者

のみ世帯や要介護3以上の方、また障害の方等で4、600人以上で災害時要援護の登録者は246人。プランの策定については地区への説明を行っているところ。今後は関係機関と地区長、民生委員の方等で情報を共有し、誰が支援を求めているかを把握して頂く。支援者を決めるにあたっては十分に制度を理解して頂き慎重に進める。

◎結城豊太郎記念館を「学び、交流、活動」の拠点としたこの機会に、市民の文化振興、文化の教育のためにも、名誉市民芳武茂介氏の作品等の結城記念館への展示を。

〈市長〉 今後、芳武茂介先生の貴重な数々の作品をはじめ、様々な偉人、文化人の作品を多くの市民の目に触れていただくため、結城豊太郎記念館に限らず広く公共の施設で、特別企画展など展示の機会を作って行きたい。



※不登校…30日以上欠席の児童、生徒



子ども、子育て「新システム」と
漆山保育園民営化の白紙撤回を
さとう 藤明 議員

◎政府が進めようとしている新たな保育制度案子ども、子育て「新システム」は、2つの重大な問題がある。それぞれの理念のもとで堂々と実践を積み重ねてきた幼稚園や保育所を、これまでの経緯や現場の状況をふまえて十分に議論せず一本化しようとしていること。児童福祉制度として機能してきた現行保育制度を解体するもの。しかも、来年の通常国会に関連法案が提出され強引に改悪が進められようとしている。幼稚園、保育園の保護者、関係者から懸念と反対の声が広がっているがどうか。

〈市長〉要綱の中に株式会社やNPOなどの多様な保育主体の事業参入も考えられ、これまでの保育の質が維持できなくなり、子どもにしわ寄せがいくのではと危惧さ

れている。また、新システムに対する不安の声も多い。まだ具体的な内容が決定されているわけではないので、詳細については今後の動向を注視したい。

◎漆山保育園の民営化はあまりにも唐突すぎるのでは。

〈市長〉近年急速な少子化の進行が続く、このままでは保育サービスが困難なことや国の幼保一体化構想もあることから、今後のあり方について検討を加えたところだ。

◎保護者会や歴代会長、地域の方々は市当局のやり方に対し、「説明が十分でなく、ほとんどの住民が知らない」「たった2カ月でこんな大きな問題を決定、実施しているのか。認められない」等々、民営化反対の署名活動を展開している。現在漆山地区の世帯署名数が767世帯中729戸(95%)、16歳以上の署名数が1,732名。重く受けとめ白紙撤回すべきでは。

〈市長〉十分なご理解をいただけないこと、非常に残念に思う。事実上白紙。今後保護者会や地域の方々と十分話し合いたい。



日本国民の食糧を守るため
たなか ていいち 議員

◎10月1日菅総理は、所信表明の中で突然TPPを口にした。マスコミも一部の発言「このままでは日本だけが乗り遅れる」「鎖国が開国か」などを取り上げ世論をおおっている。前原発言の「GDP 1.5%を守るため98.5%を犠牲にして良いのか」などは、最悪の発言であり、国民、消費者を誤った情報でTPP参加に誘導するものである。日本の農産物平均関税率は12%の低水準であり、農産物輸入額は6兆7千億円にも達し、世界最大の農産物輸入大国である。TPPで関税をゼロにする事は、米国、オーストラリア、ニュージーランド等と同等で競争することであり、数百ha、数千haを耕作している経営体と闘うことであり、全く現実無視の暴論である。宮城県

が、TPP加入した場合を試算した、米90%、牛や豚等70〜80%位で大幅な悪影響が出ると言っている。また農業だけでなく漁業や林業、金融、保険、医療等と合わせ看護師等の労働力の自由化も交渉内容となっている。塩田市長の基本的な認識と見解を伺いたい。

- 〈市長〉一部の農産物は輸出品として生産量を伸ばすが、全体的に生産の減少、雇用の減少、そして離農も進むと思う。製造業では国内生産が増加し雇用が拡大すると思われる。TPP参加にあたっては、総合的な判断が必要になると思っている。
- その他の質問
- 本市の農業政策全般について。
 - 戸別所得補償モデルの件。
 - 農業産出額の増大政策の件。
 - 第5次総合基本構想全般について。



常任委員会審査報告

総務常任委員会

◎第5次南陽市総合計画基本構想の策定について。

本案は、本市の総合的かつ計画的な行政運営を図るため、第5次南陽市総合計画基本構想を定めることについて、地方自治法第2条第4項の規定により、議会の議決を求めるもの。当局より、期間を平成23年度から平成32年までの10年間とし、人づくりを中心とした教育振興や活気あふれる産業経済健康で文化的な市民生活の実現と創造をまちづくりの目標に策定されたことや、平成23年2月をめどに前期5カ年の基本計画を策定するとの説明を受けた。審査の結果、当局の説明を了とし、全員異議無く原案のとおり可決しました。

◎請願第9号 治安維持法犠牲者国家賠償法（仮称）の制定を支持し、政府等に対して意見書を提出することについての請願。

本請願は、治安維持法が大正14

年に制定され敗戦により廃止されたが、この間有罪判決を受けた人々は無罪となったが、国からは謝罪や名誉回復の措置が行われていないとして、政府等に対して意見書の提出を求めるものである。審査の中で、犠牲者やえん罪がどれ位あったのか、また国の考えかたや取り組みもわかっていない等今後充分検討すべきことから、審査の結果、全員異議なく継続審査としました。

（委員長 高橋 篤）



新築になった宮内中の多目的スペース

産業建設常任委員会

◎TPPP（環太平洋戦略的経済連携協定）参加に反対する意見書提出方請願書について。

◎環太平洋戦略的経済連携協定（TPPP）参加反対を求める請願について。

両請願は関連があり、一括して審査を行いました。

当局より、TPPPはシンガポールやチリなど4カ国が2006年に発効した協定に、アメリカなどが加わり拡大に向けて交渉中であること、関税撤廃だけでなく環境労働分野など新たな貿易投資ルールの策定にも意欲的な協定であること。またTPPPに日本が参加した場合、農林水産省の試算では我が国の農林水産業や雇用問題、食糧自給率にも甚大な影響があるとの説明がありました。

委員からは、去る11月29日にTPPPに関する意見書を提出しているが、我が国が受ける大きな打撃を思慮すると、さらに踏み込んだ意見書の提出が必要であるとの意見が出されました。

審査の結果、両請願それぞれ願意妥当と認め、全員異議なく採択とし、国に対し意見書を提出することとしました。

◎ハイジアパーク南陽設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について。

去る11月29日、市長から、今後様々な検証を必要とし、将来における料金設定も更なる検討を要することを勘案し、当面現行条例による管理運営が可能であるため、本議案を撤回したい旨の申し出があり、これを承認いたしました。

（委員長 板垣致江子）



十分一山よりのぞむ、白竜湖

常任委員会行政視察報告

文教厚生常任委員会

10月8日、学校建設現場2カ所、乳幼児保育センター、食品リサイクルセンター、結城豊太郎記念館などの視察を行いました。

宮内乳幼児保育センターは、公設民営の民間保育園であり、現在3カ月〜1歳児を34名預かっているとのこと。また、子育て支援センターを市の委託を受け行っている。利用人数は延べ2,071名である。出前保育で外に出向いた保育も支援しており、合わせて5,000名の親子に援助を行っているとの事であった。今後の課題は、親子が遊べるプレールームの利用が増えたため、駐車場の拡張整備が必要と思われた。また、0歳児の待機乳児が年の途中で出ている。少子化とはいえ0歳児、1歳児保育のニーズは高く、今後市全体として施設拡充による定員増が必要と感じました。

食品リサイクルセンターは、県



食品リサイクルセンター

南エコサービスが狙柳地内に建設操業している施設であり、現在100t、120m³の動植物性廃棄物を、バイオ酵素で約20日かけ分解中であつた。事業開始間もないので堆肥の完成には至ってなかつたが、臭いは問題ない状況でした。結城豊太郎記念館は今年度より無料となり、臨雲文庫を社会教育施設として開放している。4つの基本方針を立て、生涯学習の推進を図っていた。入館者増を図るため意欲的に事業に取り組んでおり今後が期待できる。敷居が高いという意見も出たが、更なるPRが必要と感じて来ました。

(委員長 田中 貞一)

産業建設常任委員会

天候に恵まれて、10月18日、5カ所の管内視察を行いました。

① 十分一山観光基盤整備（景観保全）事業。

この事業は国の雇用対策を受け「緊急雇用創出事業臨時特例基金事業」により実施。近年増えている耕作放棄地のぶどう棚を整備し、景観を良くするため、棚の撤去や作業小屋の撤去、雑木の伐倒、畑面植生、遊歩道の整備等を12月まで行うもの。公募で採用された9名が急傾斜地ではば人力で作業を行っているとの事でした。

② 白竜湖周辺。

今現在、ほとんど手を掛けていない白竜湖。大変残念な状況で、南陽市の大切な自然財産として、まず出来る事から取り組む必要を切に感じました。

③ やまがた絆の森（南陽イオンの森）。

十分一山の市有林5haをイオン環境財団の支援で整備。今年はおオヤマ桜を赤湯、白竜湖を眺められる所に300本植樹。来年再来



日本一の菊まつり

年で4,800本の広葉樹を植える。頂上のハングテイクオフエリアからの置賜一円の眺めは素晴らしいこと、自然を満喫できる新しい市民の森として期待したい。

④ ハイジアパーク南陽。

昨年12月に入場料が300円になつてからの状況、プールの修理等の報告があり、委員から料理や湯量等の市民の声も含め意見が出された。館内も回り、入館者が気持ちよく利用できるように、修理点や改善点を提示させて頂いた。

(委員長 板垣致江子)

議会運営委員会 行政視察報告

10月4日から6日迄、議会改革に積極的に取り組んでいる有田市議会及び葛城市議会に議会活性化策と地場特産品のブランド確立プロジェクトの行政視察を実施しました。有田市は人口が南陽市と余り変わりなく、ミカンの産地としては全国的にも有名な所。昔紀伊国屋文左衛門が江戸に舟運でミカンを送っていたとされる歴史的にも有名な所。市内のいたる所にミカン畑が広がり生産量は日本一である。貿易自由化の流れの中で世界中から種々の果物が大量に安く入ってくるため、消費の減退と価格の不安定などの課題もあるとのこと。市の施策として有田独特の石垣積み段々畑園地の保全や、全国初の「地域農産物を認定し販売する制度」を積極的に実施していました。

議会活性化策としては議員数削減、諸費用削減に取り組んでおりました。

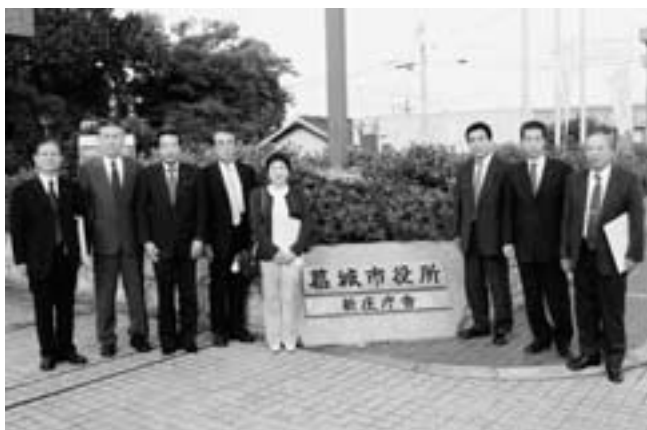
葛城市は人口3万5千人、二輪菊の生産は日本一で、主に京阪神

の市場に観賞菊、会場菊として出荷。近年は若い栽培農家が増え喜んでいくとのこと。

議会活性化に関しては議員数の見直しや議会改革に取り組んでおりました。

南陽市でも人口減少にスライドさせた定数の検討、土日議会の開催やインターネットによる議会中継、大画面による議会全体の放映等、市民の皆さんに身近でわかりやすい議会を、更に目指す必要を感じた有意義な研修でありました。

(委員長 漆山 鏗一)



議会報編集委員会 行政視察報告

11月16日・17日と福島県いわき市に議会報編集委員会の研修視察を行いました。

いわき市は人口で南陽市の約10倍、面積で約8倍と大きな市ですが、議会報のタイトルが『ほうれんそう』とユニークなのに興味を持ちました。市民の皆様に親しみをもつて頂き、一層読んでもらえることを目的に、市民を対象に名称を募集「報告・連絡・相談」が重要であること、さらに、野菜のほうれん草から連想する「パワー」すなわち活力ある、議会活動が重要であることから、平成14年10月号よりこの名称になったとのこと。

平成18年から始まった中核市議会議会報コンクールで、18年・20年・21年・22年と4回に渡り、最優秀賞や優秀賞を受賞しております。受賞の理由としては、一般質問の議員数が平均20名と多いためほとんどの紙面が、その報告となってしまうので、写真、イラストを多くとり、むずかしい用語の

解説をくわしくのせる。また、表紙の写真には特に気を配り、市内の子供達の動きのある様子などを題材にしているのが受賞に結びついている。

大きな点として、点字だより、声のたよりとして市内の目の不自由な方の希望する方に、議会報の点字版、及び録音テープを無料配布している。点字だよりが62部、声のたよりが35本だそうです。

平成5年の4月から実施しているとの事でした。

(委員長 川合 猛)



置賜広域病院組合 議会定例会・視察報告

—— 議 会 報 告 ——

置賜広域病院組合議会の10月定例会は、去る10月26日午前10時より南陽市議場で開かれました。

提出された議案は①平成22年度置賜広域病院組合病院事業会計補正予算（第1号）②置賜広域病院組合立病院及び診療所に係る使用料及び手数料条例の一部を改正する条例についての2件です。

①については地域医療再生計画関連事業の実施と平成21年度の病院事業決算に伴う構成団体負担金の精算のための所要の予算措置を行うものです。

②については山形県立病院の分べん介助料金が改定されたことに準じて当病院組合の分べん管理料の改定を行うものです。

いずれも原案のとおり可決されました。

—— 行政視察報告 ——

置賜広域病院組合議会議員行政視察研修は、同程度の機能を有し医療連携に取り組み、救急医療を

担い、経営が優良である病院の運用実例について調査を行い、置賜地域の基幹病院としてのあり方等の検討及び推進に資するために行われます。去る11月4日から5日までの日程で東京都小平市にあります公立昭和病院での行政視察を行います。

本病院は昭和3年に設立され、現在は東京多摩地区北部の8市により組織されており、地域内の個人病院や診療所等と機能の分担をしながら地域医療に貢献し、今年4月より7対1看護体制をとり、より質の高い医療の推進を図っております。さらには新しい時代に対応した医療環境の整備としての増改築工事も行い、良好な収支バランスを保ちながら健全な病院経営を進めておりました。

（置病議員 殿岡 和郎）



置賜広域行政事務組合 議会定例会・視察報告

—— 議 会 報 告 ——

11月26日平成22年度置賜広域行政事務組合議会、11月定例会が行われました。

◎平成21年度置賜広域行政事務組合一般会計継続費精算の報告

◎ごみ焼却施設建設工事の受注に係る不法行為による、損害賠償請求訴訟について、和解するため緊急を要したため、専決処分したもので賛成多数で承認されました。

◎平成21年度置賜広域行政事務組合一般会計歳入歳出決算。

◎平成21年度置賜広域行政事務組合ふるさと市町村圏事務費特別会計歳入歳出決算、両決算とも賛成多数で認定されました。

◎平成22年度置賜広域行政事務組合一般会計補正予算、満場一致で可決。以上置賜行政事務組合11月定例会報告

—— 行政視察報告 ——

10月14日15日の両日、置広議員の視察研修が行われ、伊藤議長、片平議員、高橋議員が参加しまし

た。研修先は宮城県石巻市と大崎市の2ヶ所でありました。石巻市は消防広域化が昭和46年と早い時期に発足し、指令センターについては1つの司令室に統合になり、仕事の簡素化が図られていました。置賜2市2町で進めている消防広域化について色々研修させていただきました。

大崎市の研修は「ごみ」の最終処分場の視察でありました。13万人の「ごみ」の焼却、また燃えカスへの処分はどこでも頭の痛いところであるが、あまり問題も発生しておらず、地元との対話がうまく行っている様に思えた。

（置広議員 高橋 弘）



石巻市消防指令センター

置賜二市二町議員親善交流会の報告

10月1日置賜二市二町議員親善交流会が開催され、研修の部では、公立高島病院副院長の大木宏先生を招き「未病と風呂とCO₂」と題しての講演を聞きました。特にヌル湯効果の話では、42℃〜43℃の熱いお風呂につかるのが習慣となっているが、入浴中の事故で亡くなる人が年間3万人と大変多いとの事、いずれも熱い風呂で起こっている。悪しき生活習慣群のなせる業である。

風呂の最適温度は、冬38℃夏36℃水を飲みながら30分ゆつくりとはいる事、最初は寒いのですが20分位で汗が出て来て、30分位たちますと体中がポカポカと真冬でも冷え性の人が、就寝時の靴下や湯たんぽまで不要になっただけでなく、更年期特有の顔のほてり感や、めまい、立ちくらみ、長年苦しんだ便秘や肩こりまでが治ったとの事。当初は半信半疑だったが、薬を処方したわけでもないで、純粹にヌル湯のお風呂だけで克服された



(川合 猛)

ことなる等、実際の患者さんの話を交えての「ヌルめの湯に、ゆつくり、ながーく」と入浴法の講演でした。議員の方も実践されていると聞いております。皆さんも是非お試しください。

午後からは、スポーツ交流として、置賜スポーツ交流プラザのパークゴルフ場で、市町対抗親善試合を行い、和気あいあいと珍プレー好プレーの連続で、午前中の講演会に引き続き大変実のある交流会となりました。

県市議会議長会定期総会

11月10日、赤湯温泉「いきかえりの宿瀧波」において、山形県市議会議長会定期総会が県内13市37名の参加で開催されました。

年2回の総会で春は山形市、秋は12市の順回りで開催されており、南陽市での開催は平成13年以来となりました。

会長である斎藤淳一山形市議会議長によるあいさつの後、開催市として南陽市議会議長が歓迎のあいさつをし、南陽市長らが祝辞を述べました。

総会では、開催市として南陽市議会議長を議長に選任し協議が行われました。

陳情・要望活動や各種研修会などを含む平成23年度事業計画・各会計予算・役員についてのほか、県・国に対する要望事項、東北市議会議長会定期総会提案事項について決定しました。

国・県に対する要望事項は、道路整備や子育て支援に関するものなど21件。東北市議会議長会定期総会提案事項は、①道路整備の促



進について②国際公益拠点「酒田港」の機能強化について③水田農業政策の確立と農業・農村の活性化策についての3点であり、これらすべてを了承しました。

高橋位典上山市議会議長から、TPPに関し、政府が関係国との協議開始方針を決めたことについて反対すべきとの提案が出され、政府への要望書を早急にとりまとめることとなりました。

また、伊藤護國天童市議会議長から、全国市議会議長会の国会対策委員会で副委員長に就任し、平成23年度に向けた地方行政財政施策に関する重点要望を決定・要請活動を実施したとの報告を受けました。

8年の歳月をかけ国道13号 上山バイパス川樋く中山間開通

12月12日午前10時、国道13号上山バイパスの南陽市川樋から上山市中山に至る5.5km区間が完成し、開通式典が南陽市元中山の岩部山トンネル入口付近で行われた。

式典には地権者始め多くの関係者が参加、吉村美栄子知事と横戸長兵衛上市市長、塩田秀雄南陽市長があいさつ。県選出の国会議員が祝辞を述べた。

このバイパスは、南陽市川樋から上山市中山地内までの住宅密集

地を通過する、幅員の狭い現道では東北平均の2倍もの交通事故の発生や、冬期間の除排雪など、早期の完成が望まれていた。

平成15年から工事が始まり、8年の歳月をかけての開通となった。当所は南陽市中川地区を通過する「中川バイパス」として国へ要望したが、なかなか予算がつかず色々と考えた末「上山バイパス」の延長とし、中川工区としてようやく事業着手に至ったという。ま

た岩部山トンネルの名称も開通2ヶ月前になり、公募でなければならぬという事になり、何とか数百票の票を集め、正式に岩部山トンネルの名がついた。バイパス名といいトンネルの名称といい中川地区にとつては、いわく付きの道路である。

開通式典の後、地元中川地区の岩部ソーラン会の「よさこいソーラン」と上市市の「掛入石中山宿獅子担ぎ」が式典に花を添え披露された。今迄の通行車両、約2万5千台の90%が新バイパスに移っている。何はともあれ、待望のバイパスです。事故の無い事を心から祈ります。

(川合 猛)

平成22年12月定例会 請願審査結果表 H22.12.21

付託委員会	件名・請願者	審査結果
総務	治安維持法犠牲者国家賠償法(仮称)の制定を支持し、政府等に対して意見書を提出することについて 南陽市池黒1682番地 加藤 俊明	継続審査
産業建設	TPP(環太平洋戦略的経済連携協定)参加に反対する意見書提出方請願書 東置賜郡川西町大字上小松978-1 山形おきたま農業協同組合 経営管理委員会会長 木村 敏和 山形おきたま農業農政対策本部 本部長 木村 敏和	採択
設	環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)参加反対を求める請願 南陽市漆山1068番地 南陽市農民連 会長 竹田 久一	採択



編集後記

新年明けましておめでとうございませう。昨年は猛暑日や落雷、ゲリラ豪雨など、大変な一年でした。そんな天候にも負けず、けなげに育ち豊作と成った「つや姫」山形のブランド米として大きく成長して欲しい物です。

今年一年が皆様にとりまして幸せに満ちあふれた素晴らしい年に成ります様心からお祈り致します。

- 委員長 川合 猛
- 副委員長 梅川 信治
- 委員 白鳥 雅巳
- 委員 吉田 美枝
- 委員 高橋 弘
- 委員 板垣致江子

南陽市議会議員一同は、政治倫理の確立を期するため、年賀状などの時候の挨拶状(答礼のため自筆によるものを除く)、諸行事、会合での一切の寄付などは行っておりません。

市民のみなさんのご理解とご協力をお願いいたします。

公職選挙法の規定を守り、虚礼廃止を申し合わせています。

